

参加報告書 (インドネシア・ブディルフル大学)

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について (200 字以上)

大学生最後の夏をただ遊んで終わりにするのではなく、国際日本学部生らしい学びのある夏にしたかったから。その中でも人口・経済規模共に大きく、日本企業の進出が顕著に見られるインドネシアの文化・国民性を学びたかった。元々英語を「話す」ことに苦手意識が強く、必然的に英語を話す環境に自分を置いてみたかった。私は幼少期ジャカルタに 2 年弱住んでおり、親もその頃のよい思い出話をたくさんしてくれたが、私自身の記憶は浅かった。今回のプログラムを通じて自分の目でインドネシアの現状を確かめることができると思ったから。

② プログラム内容について (各項目 200 字以上)

1. ボランティア活動・ワークショップについて

ボランティア活動という名もあり、構えて行ったつもりだったが実際はバディ達がとても働いてくれた。ランチボックスを作って大学前で配布、孤児院で幼児と遊ぶ、老人ホームに行く、など様々なメニューがあったが危険性が伴う活動は全くなかった。普通の「観光」では見られないインドネシアの実情が見られた。集大成のワークショップとして「縁日」を企画していったが、屋台のイメージも私たちの案が叶うように最善を尽くしてくれ、想像以上のクオリティとなった。それもバディ達が、私たち明治の学生が休息を取っている中でも働いてくれたおかげであり、次年度以降も続けていくのであればもっと日本で準備をしていくべきだと思った。たくさん意見をしてほしい！と求めてくれるため臆せず皆のために発言するとよいと思う。

2. 授業 (インドネシアの歴史や文化、インドネシア語) について

インドネシア語、歌、ダンスの授業はどれも楽しく取り組むことができた。インドネシア語は簡単な挨拶を学んだが、英語と似たような文法で楽しく学ぶことができた。学んだインドネシア語は口にしたいくなり、バディ達や出会う人々とのコミュニケーションを取るきっかけとなってよかった。歌やダンスの授業は、それぞれ先生がクラスを開いてくれたのだが、よい意味で大学生らしくなく童心に返って全力で楽しむことができた。縁日の日に発表の場があったが、恥ずかしくともサポートを先生やバディ達が沢山してくれたことを思い出して全力で楽しむよう心掛けた。音楽は国籍問わず皆で明るい気持ちになることができ、老人ホームや移動車の中など場所を問わず笑顔が生まれるきっかけだった。

3. フィールドトリップ (バンドンツアー) について

人数の関係か、バンドンまでの行きの手手段として最新の新幹線に乗らせて貰えたのはよい経験だった。バンドンはアウトレットが有名な場所だが、買い物自体はジャカルタでも十分楽しめる気がする。夜にブラガ通りというメインストリートを歩いたが、歩いているだけで満足感のある明るさがあった。メインイベントとしては伝統楽器のショーを 1,2 時間鑑賞したが、楽器を触って客も参加できて有意義な時間だった。2 日目の朝は早起きして素敵なカフェに連れていってもらった。ジャカルタから遠いこともあり、正直フィールドトリップの時間が充分だったかは微妙なところだが、ホテルはとても綺麗、ジャカルタより空気も綺麗で皆満足だったと思う。

③ 本プログラムへの参加によって得たこと、および感想（200 字以上）

ボランティア活動をしなが、私たちがインドネシアの文化や慣習を体験させてもらう場として、とてもよい機会だった。見返りを求めない優しさや SNS が好きすぎる国民性、驚くことはたくさんあったがどれも新鮮に面白かった。高校生に日本文化を教えると皆喜んでくれたり、日本のアニメについて話してくれたり、日本の文化に対して誇らしさを感じる場面が多々あった。その一方で、インドネシア人が盛大に独立記念日を祝っている中で日本人は「国民性」を忘れがちな気もしたため、アイデンティティの再認識をする必要性も感じた。ジャカルタにのみ焦点を置くと、とても発展しているように感じた。しかし、私立大学のプログラムに参加したこともあり、ジャカルタの「上澄み」だけ見せてもらった点もあると思っている。（実際に観光地にはスリがいたり、乞食のような少年がいたり）その中で関わった人々は皆学びに貪欲で、前向きで、インドネシアが発展する理由はそんなところにあるのではないかと思った。また、同世代のバディ達は英語が上手だけでなく、音楽やデザイン、日本語など様々な趣味を持ち何事にも一生懸命な姿が印象的だった。自分も一日一日を大切に、学ぶことを辞めないでいたいと思うようになった。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

寮は高級住宅街のような場所にあり、治安がよかった。コンビニやランドリー（徒歩 10 分ほど）であれば女子だけでも歩いていけるような場所だった。キャンパスも私立大学らしく綺麗で、私たちの活動拠点であった SL(school lounge)はテレビもあった。

2. 食事について

毎昼ごはんを先生方が出してくれた。基本的に出前だが、ショッピングモールに行くときはランチ代を全て（飲み物代以外）持ってくれた。出前のメニューは前日からリクエストさせてもらったため、ほぼ全てのインドネシア料理にチャレンジできてよかった。どれも美味しかった。日本から白ご飯やインスタント味噌汁を持っていったことに加え、マクドナルドをはじめとしたファストフードも色々なところで食べることができ、また Uber も安く、食事で困ったことはなかった。

3. 交通手段について

送迎は基本的に大学のバスだった。スーパーマーケットやランドリーは、バディ達を通して、もしくは運転手に直接伝えれば快く連れていってくれた。

4. 通信環境について

大学・寮ともに WI-FI の速度はよかった。ESIM は 10GB のものを持って行ったがギリギリ持たず、最後の 2、3 日は寮と大学の WI-FI を頼りにしていた。

5. 買い物事情について

朝ごはんや軽食は寮から徒歩でも行ける HERO というスーパーマーケットで適宜買い物していた。ショッピングモールは大きければ大きいほど観光客向けで正直安くはないと思う。バディ達に付き添ってもらって行く少しローカルなモールや、スーパーマーケットは楽しく買い物できた。

6. 医療事情について

体調を崩したが、病院にからなかったため医療に関しては不明。のど飴などは 100 - 200 円で薬局ですぐに買うことができた。

7. その他、現地での生活等に関して、参考となることがあれば教えてください

プールバッグのようなものがあるとよいと思う。小さく持ち運べるエコバッグも必須！また、衛星が気になる人は100均で買えるようなウェットティッシュも多めに持って行ってよいと思う。

以上